イ 太四〇一　可一〇十二
ロ 路四〇十四、二〇廿七
ハ 出卅四〇廿八　王上十九〇八
ニ 申八〇三
ホ 約十二〇卅一、十四〇卅　默十三〇二、七
ヘ 申六〇十三、十〇廿
ト 太四〇五
チ 詩九十一〇十一
リ 申六〇十六
ヌ 約十四〇卅　來四〇十五
ル 太四〇十二　約四〇四十三
ヲ 路四〇一
ワ 徒十〇卅七
カ 太二〇廿三、十三〇五十四　可六〇一
ヨ 徒十三〇十四、十七〇二
タ 賽六十一〇一
レ 詩四十五〇二　太十三〇五十四　可六〇二　路二〇四十七
ソ 約六〇四十二
ツ 太四〇十三、十一〇廿三
子 太十三〇五十四　可六〇一

第四章　偖イエス聖靈に感されてヨルダンより歸り靈に導かれ野に適て 二 四十日惡魔に試らる此諸日な
にをも食ず四十日畢てのち餓たり 三 惡魔かれに曰けるは爾もし神の子ならば此石に命じてパンと爲せよ
四 イエス答けるは人はパンのみにて生る者に非ず唯神の凡の言に由と錄されたり 五 惡魔また彼を高山に
携ゆき一瞬間に天下の萬國を示して 六 曰けるは此すべての權威と榮華を爾に予ん我これを委任たれば我
が欲む者に之を予ふべし 七 故に若わが前に拜跪ば悉く爾の屬とならん 八 イエス答けるはサタンよ我後に
退け獨主たる爾の神に拜跪これにのみ事べしと錄されたり 九 惡魔またイエスをエルサレムに携ゆき聖殿
の頂に立て曰けるは爾もし神の子ならば此より己が身を投よ 十 そは神その使者等に命じて爾を護せん
十一 爾が足の石に觸ざるやう彼等手にて扶べしと錄さる 十二 イエス答けるは主たる爾の神を試む可らずと云に
けり 十三 惡魔この誘試みな畢て暫く彼を離たり 十四 イエス聖靈の能を以てガリラヤに歸しに其聲名あまねく
四方の地に廣がりぬ 十五 斯て彼等の會堂にて敎を爲すべての人々に榮を得たり○ 十六 その長育し所なるナザ
レに來り常例の如く安息日に會堂に入て聖書を讀んとて立ければ 十七 預言者イザヤの書を予しにイエス其
書を展て斯錄れたる所を見出せり 十八 主の靈われに在す故に貧者に福音を宣傳ん事を我に膏を沃て任じ心
の傷る者を醫し又囚人に釋ん事と瞽者に見させん事を示し又壓制らるゝ者を縱ち 十九 主の禧年を宣播ん
が爲に我を遣せり 二十 イエス書を捲その役者に予へて坐しければ會堂に在者みな目を注て視なせり 二一 イエ
ス彼等に曰けるは此錄れたる事は今日なんぢらの前に應り 二二 衆かれを稱讚その口より出る所の恩惠の言
を奇み曰けるは此はヨセフの子に非や 二三 イエス彼等に曰けるは爾曹かならず我に諺を引て醫者みづから
を醫せ我儕が聞し所のカペナウンにて行し事を自己の家鄉なる此土にも行べしと云ん 二四 また曰けるは我

ナ 太十三〇五十七　可六〇四　約四〇四十四
ラ 王上十七〇九、十八〇一　雅五〇十七
ム 王下五〇十四
ウ 約八〇五十九、十〇卅九
井 太四〇十三　可一〇廿一
ノ 太七〇廿八、廿九　多二〇十五
オ 可一〇廿三
ク 路四〇四十一
ヤ 詩十六〇十　但九〇廿四　路一〇卅五
マ 太八〇十四　可一〇廿九
ケ 太八〇十六　可一〇卅二
フ 可一〇卅四、三〇十一
コ 可一〇廿五、卅四　路四〇卅四、卅五
エ 可一〇卅五
テ 可一〇卅九

まことに爾曹に告ん預言者その家鄉にては敬重るゝ者に非ず 二五 われ誠を以て爾曹に告んエリヤの時三年
と六ヶ月天とぢて徧地おほいなる饑饉ありし其時イスラエルの中に多の嫠ありしかど 二六 エリヤは其一人
へだに遣されず只シドンなるサレプタの一人の嫠に遣されたり 二七 また預言者エリシヤの時にイスラエル
の中に多の癩者ありしかど其一人だに潔られず惟スリヤのナーマンのみ潔られたり 二八 會堂に在し者こ
れを聞て大に憤ほり 二九 起てイエスを邑の外に出し投下さんとて其邑の建たる山の崖にまで曳往り 三十 然に
イエス彼等の中を徑行て去ぬ 三一 ガリラヤのカペナウンと云る邑に至りて安息日ごとに衆人を敎しに 三二 そ
の言權威有ければ衆人その敎に駭けり○ 三三 會堂に汚たる鬼の靈に憑れたる人あり大聲に喊叫いひけるは
三四 噫ナザレのイエスよ我儕なんぢと何の與あらんや爾きたりて我儕を喪すか我なんぢは誰なる乎を知す
なはち神の聖なる者なり 三五 イエス之を責て曰けるは聲を出てと勿れ其處を出よ惡鬼つひに其人を衆の中
に仆し傷ずして出 三六 衆人みな駭き互に語いひけるは權威と能力を有て汚たる鬼に命ぜしかば出去り是い
かなる道ぞや 三七 是に於てイエスの聲名あまねく此四方の地に揚りぬ○ 三八 イエス會堂を出てシモンの家に
入しにシモンの妻母おもき熱病を患ひ居たりき 三九 衆人これが爲にイエスに求ければ其傍に立て熱を斥し
に熱退けり婦たゞちに起て彼等に事たり 四十 日の入とき各樣の病を患たる者をもてる人々みな其をイエス
に携來ければ一々その上に手を按て醫せり 四一 惡鬼も亦多の人々を出さり喊叫て爾は神の子キリストなり
と云り然に之を斥て言ふことを容ざりき惡鬼そのキリストなるを識ばなり 四二 明旦イエス出て人なき處に
往ければ衆人尋來て其離去ことを止む 四三 イエス曰けるは我また他の鄕村にも神の國の福音を宣傳ざる
を得ず蓋われ之が爲に遣さるれば也 四四 斯てガリラヤの諸會堂にて道を宣傳たり

イ 太四〇十八 可一〇十六
ロ 約廿一〇六
ハ 母下六〇九 王上十七〇十八
ニ 太四〇十九 可一〇十七
ホ 太四〇廿、十九〇廿七 可一〇十八 路十八〇廿八
ヘ 太八〇二 可一〇四十
ト 太八〇四
チ 利十四〇四、十、廿一、廿二
リ 太四〇廿五 可三〇七 約六〇二
ヌ 太十四〇廿三 可六〇四十六
ル 太九〇二 可二〇三
ヲ 太九〇三 可二〇六、七

第五章 衆人神の道を聽んとて擠擁ける時イエスゲネサレの湖の濱に立て 二 磯に二艘の舟あるを見る漁
の者は舟を離て網を洗をれり 三 其一艘はシモンの舟なりしがイエス之にのり請て岸より少許はなれ坐し
て舟中より衆人を敎ふ 四 敎竟てシモンに曰けるは澳へいで網を下して漁れ 五 シモン答けるは師よわれら
終夜はたらきしかど所得なかりき然ど爾の言に從ひて網を下さん 六 既に下して魚を圍ること甚だ多く網
さけかゝりければ 七 いま一艘なる舟の侶を招きて來り助しめしに彼等が來し時その魚二艘の舟に牣て沈
んばかりなりし 八 シモンペテロ之を見てイエスの足下に俯て主よ我を離たまへ我は罪人なりと曰り 九 是
シモンおよび偕に在し者みな漁し所の魚の夥しきに駭ける也 十 シモンの侶なるゼベダイの子ヤコブとヨ
ハネも亦然りイエスシモンに曰けるは懼るゝ勿れなんぢ今より人を獲べし 十一 彼等舟を岸に寄おき一切を
捨てイエスに從へり○ 十二 イエスある邑に居しとき身ことごとく癩病を患る者ありイエスを見て俯伏ねが
ひ曰けるは主もし聖旨に肯ときは我を潔なし得べし 十三 イエス手を伸かれに按て我心に肯り潔なれと曰け
れば直に癩病いえたり 十四 イエス彼を戒めて曰けるは人に告ること勿きたゞ往て己を祭司に示かつ潔られ
し爲にモーセが命ぜし如く獻物をなし證據を彼等に爲よ 十五 然どもイエスの聲名ますます揚りて許多の人
人或は敎を聽んとし或は病を醫れんとて集り來れり 十六 イエス常に人なき處に退きて祈り給ひき○ 十七 一日
イエス敎を爲せる時パリサイの人と敎法師ガリラヤの諸鄉ユダヤエルサレムより來て此に坐し彼等の
病を醫すべき主の能顯れたり 十八 或人癱瘋を患たる者を牀に載て舁來り之を家に入イエスの前に置んと
欲ども 十九 群集にて舁入べき方なかりければ屋上に升り瓦を取除て其人を牀のまゝ衆人の中へ縋下しイエ
スの前に置り 二十 イエスその信あるを見て患者に人よ爾の罪赦さると曰ければ 二一 學者とパリサイの人々心

ワ 詩卅二〇五 賽四十三〇廿五
カ 太九〇九 可二〇十三、十四
ヨ 太九〇十 可二〇十五
タ 路十五〇一
レ 太九〇十三 提前一〇十五
ソ 太九〇十四 可二〇十八
ツ 太十六〇十七 可二〇廿一、廿二
イ 太十二〇一 可二〇廿三

に思出けるは此褻瀆ことを言者は誰ぞ神より外に誰か罪を赦すことを得ん 二二 イエスその意を知て答いひ
けるは何を爾曹心の中に論ずるや 二三 爾の罪赦さるといふと起て行と言と孰か易き 二四 それ人の子地にて罪
をゆるすの權威あることを爾曹に知せんとて遂に癱瘋の人に我なんぢに告おきて牀をとり家に歸れと曰
ければ 二五 その人衆の前にて直に起て臥居たる牀をとり神を崇て己が家に歸ぬ 二六 衆人みな駭きて神を崇か
つ大に畏懼て曰けるは我儕今日奇異なる事を見たり○ 二七 此後イエス出てレビと云る稅吏の稅關に坐し居
けるを見て我に從へと曰ければ 二八 レビ一切を捨おき起て從へり 二九 レビ己は家にてイエスの爲に豐盛なる
筵を設しに稅吏また他の人々も共に筵に坐したる者多かりければ 三十 其所の學者とパリサイの人イエスの
弟子に怨言いひけるは爾曹稅吏また罪ある人々と共に飮食するは何故ぞ 三一 イエス答て曰けるは康强なる
者は醫者の助を需ず惟病ある者これを需む 三二 わが來るは義人を召く爲に非ず罪ある人を召て悔改させ
んが爲なり 三三 彼等イエスに曰けるはヨハネの弟子は屢斷食また祈禱をなすパリサイの弟子も亦然り然る
に爾の弟子は飮ことと食ことを爲すは何故ぞ 三四 イエス曰けるは新郎の朋友その新郎と一處に居間は之に斷食
なさしむる事を得んや 三五 將來新郎と別るゝ日いたらん其日には斷食すべきなり 三六 譬を以て曰けるは 新
衣を裁取て舊衣を補ふ者あらじ若然せば新衣をも壞ひ且新より取たる布は舊ものと合ず 三七 また新酒
を舊革袋に盛る者あらじ若しかせば新酒は其袋をはりさき漏出かつ革袋も壞るべし 三八 新酒は新革
袋に盛べき者ぞ斯てこそ兩ながら存なれ 三九 舊酒を飮て立刻に新酒を欲者は有じ是舊は尤も好と云ばな
り
第六章 逾越節の二日ののち首の安息日イエス麥の畑を徑行しに其弟子麥の穗を摘これを手にて擣く

ロ 出廿〇十
ハ 母上廿一〇六
ニ 利廿四〇九
ホ 太十二〇九 可三〇一 路十三〇十四、十四〇三 約九〇十六
ヘ 太十四〇廿三
ト 太十〇一
チ 約一〇四十二
リ 猶一
ヌ 太四〇廿五 可三〇七
ル 太十四〇卅六
ヲ 可五〇卅 路八〇四十六
ワ 太五〇三、十一〇五 雅二〇五
カ 賽五十五〇一、六十五〇十三 太五〇六
ヨ 賽六十一〇三 太五〇四
タ 太五〇十一 彼前二〇十九、三〇十四、四〇十四
レ 約十六〇二
ソ 太五〇十二 徒五〇四十一 西一〇廿四 雅一〇二

らひしかバ 二 或パリサイの人かれらに曰けるハ爾曹安息日に行まじき事を行ハ何故ぞ 三 イエス答て曰け
るハダビデおよび從に在し者の饑しとき行たる事を未だ讀ざる乎 四 即ち神の殿に入たゞ祭司の外ハ食ま
じき供物のパンを取て食かつ從に在し者にも予たり 五 又曰けるハ人の子ハ安息日にも主たる也○ 六 また
一の安息日にイエス會堂に入て敎ふ此に右の手枯たる人ありければ 七 學者とパリサイの人イエスこれを
安息日に醫ならんかと窺ひぬ蓋かれを訴んと欲ばなり 八 イエスその意を知て手なへたる人に起て中に立
よと曰ければ其人おきて立り 九 イエス曰けるハ我なんぢらに問ん安息日に善を行と惡を行と又生を救る
と殺と孰をか行べき 十 遂に衆人を環視て其人に手を伸よと曰ければ彼その如せしに手すなはち愈て他の
手の如くなれり 十一 彼等大に怒て如何にイエスを處んと互に議あへり○ 十二 當時イエス祈禱の爲に山に往て
終夜神に祈れり 十三 夜明てイエス弟子を呼その中より十二人を選て之を使徒と稱く 十四 即ちペテロと名たま
ひしシモンその兄弟アンデレ及ヤコブとヨハネピリポとバルトロマイ 十五 マタイとトマスアルパイの子な
るヤコブとゼロテと云るシモン 十六 ヤコブの兄弟のユダとイスカリオテのユダなり此ユダハイエスを賣た
る者なり 十七 イエス是等と共に下て平かなる地に立しに許多の弟子と夥しき人々ユダヤの四方またエルサ
レム及ツロシドンの海邊より來 集りて或ハ其敎を聽んとし或ハ病を醫されん事を冀へり 十八 また惡鬼に
難されたる者あり咸く醫されたり 十九 衆みなイエスに捫らんとせり是能力の其身より出て彼等を咸く醫
せば也○ 二十 イエス目を擧弟子を見て曰けるハ爾曹貧者ハ福なり神の國ハ即ち爾曹の所有なれば也 二一 爾曹
いま餓たる者ハ福なり飽ことを得べければ也 爾曹いま哭者ハ福なり笑ことを得べければ也 二二 人の子の
爲に人なんぢらを憎また絶け詈り爾曹の名を惡しとして棄なば爾曹福なり 二三 其日には欣び踊れ爾曹天に

ツ 徒七〇五十一
ネ 路十二〇廿一 雅五〇一
ナ 歷六〇一
ラ 太六〇二、五、十六 路十六〇廿五
ム 賽六十五〇十三
ウ 約十五〇十九 約壹四〇五
井 箴廿五〇廿一
ノ 太五〇四十四 路六〇卅五
オ 出廿三〇四 箴廿五〇廿一 羅十二〇廿
ク 路廿三〇卅四 徒七〇六十
ヤ 太五〇卅九
マ 哥前六〇七
ケ 申十五〇七、八、十 箴廿一〇廿六 太五〇四十二
ケ 太七〇十二
フ 太五〇四十六
コ 太五〇四十二
エ 路六〇廿七
テ 詩卅七〇廿六 路六〇卅
ア 太五〇四十五
サ 太五〇四十八
キ 太七〇一
ユ 箴十九〇十七
メ 詩七十九〇十二
ミ 太七〇二 可四〇廿四 雅二〇十三
シ 太十五〇十四
ヱ 太十〇廿四 約十三〇十六、十五〇廿
ヒ 太七〇三
モ 箴十八〇十七
セ 太七〇十六、十七
ス 太十二〇卅三

於て賞賜大なれば也その先祖が預言者に行たりしも是の如し 二四 爾曹富者ハ禍なる哉すでに安樂を受ばな
り 二五 爾曹飽者ハ禍なるかな餓んとすればなり爾曹いま笑者ハ禍なるかな哀み哭んと爲ばなり 二六 凡の人な
んぢらを譽なば爾曹禍なる哉その先祖が僞の預言者に行たりしも是の如し 二七 我に聽ところの爾曹に告ん
其仇を愛し爾曹を憎者を善し 二八 詛者を祝し虐遇者の爲に祈禱せよ 二九 人なんぢの頰の右方を擊バ亦左方の
頰を向よ爾の外服を奪バ裏衣をも禁ざれ 三十 凡て爾に求バ之に與へ爾の物を奪バ其をまた索る勿れ 三一 己人
に施れんとする事ハ亦人にも其如く施よ 三二 己を愛する者を愛するハ何の賞賜あらんや惡人にても己を愛
する者ハ愛する也 三三 己に善を行者に善を行ハ何の賞賜あらんや惡人もまた是の如く行なり 三四 爾曹償るゝ
事を得んとおもふ人に借ハ何の賞賜あらんや惡人も其ごとく償を得んとて亦惡人に借なり 三五 爾曹仇を愛
し又善をなし何をも望ずして借與よ然バ其賞賜ハ大なり且至上者の子と爲ん夫至上者ハ恩を忘るゝ者およ
び不善者にまで慈愛を施せば也 三六 是故に爾曹の父の憐憫の如く亦憐憫を爲べし 三七 人を議こと勿れ然バ爾
曹も議れず人を罪すること勿れ然バ爾曹も罪せられず人を恕せ然バ爾曹も恕さるべし 三八 人に與よ然バ爾
曹も予らるべし彼等量を嘉して搖いれ撼いれ溢るゝ迄にして爾曹の懷に納ん爾曹量る所の其量にて亦人
に量るべし○ 三九 また譬を彼等に曰けるハ瞽ハ瞽の相者をなし得るや相共に溝壑に陷らざらん乎 四十 弟子ハ
その師に踰ず凡その全備なる者ハ其師の如なるべし 四一 なんぢ兄弟の目にある物屑を見て己の目にある梁木
を知ざるハ何ぞや 四二 如何で己の目にある梁木を見ずして兄弟に對ひ兄弟よ爾の目にある物屑を我に取せ
よと云ことを得んや僞善者よ先おのれの目より梁木をとれ然バ兄弟の目にある物屑を取ことを明かに見べ
し 四三 それ惡果を結ハ善樹に非ず又善果を結ハ惡樹に非ず 四四 凡の樹ハその果に因て識る荊棘より無花果を

イ 太十二〇卅五
ロ 太十二〇卅四
ハ 馬一〇六 太七〇廿一、廿五〇十一 路十三〇廿五
ニ 太七〇廿四
イ 太八〇五
ロ 路八〇五十四 約十一〇四十三 徒九〇四十 羅四〇十七
ハ 路一〇六十五
ニ 路廿四〇十九 約四〇十九、六〇十四、九〇十七
ホ 路一〇六十八

探ず亦蒺藜より葡萄を採じ 四五 善人は心の善庫より善を出し惡人はその惡庫より惡を出す蓋心に充るより
口に言ゝ也 四六 爾曹わが言ことを行はずして何ぞ我を主よ主よと稱るや 四七 凡て我に就り我言を聞て行者
を譬て爾曹に示さん 四八 其人は家を建るに土を深く堀て基礎を磐上に置るが如し洪水のとき横流その家を
衝とも動すこと能ず是基礎を磐上に置ゐあり 四九 聽て行はざる者は基礎なく家を土の上に建たる人の如し
横流これを衝ときは其家たゞちに傾れ其頽壞また甚だし

第七章 一 イエス此すべての言を民に敎畢てカペナウンに入しに 二 ある百夫の長その愛する僕やみて死
ばかりなりければ 三 イエスの事を聞ユダヤの長老等を遣して來り僕を助け給んことを求り 四 彼等イエス
に就り切に勸いひけるは此事を求る人は善人なり 五 我民を愛し我儕の爲に會堂を建たり 六 イエス彼等と
共に往て既や其家に近けるとき百夫の長朋友を遣して曰せけるは主よ自己を勞動こと勿れ我ゞの家裏に入
奉るは憚多し 七 故に我なんぢの前に出も亦憚あり第一言を發たまへ我僕は愈ん 八 蓋われ人の權威の下
に屬る者なるに我下に亦兵卒ありて此に往と命ば往かれに來と命ば來る我僕に之を行と命ば即ち行が故
なり 九 イエス聞て之を奇み從へる人々を顧て曰けるは我なんぢらに告んイスラエルの中にても未だ斯る
篤信に遇ざりき 十 遣されたるもの家に歸て病たりし僕を見ば已に全快をなせり○ 十一 翌日イエスナインと
云る邑に往けるに許多の弟子および許多の人々も共に往り 十二 邑の門に近づきしとき舁出さるゝ死人あり
其母は嫠にて此は獨の子なり邑の人々多これに伴ふ 十三 主嫠を見て憫み哭なかれと曰て 十四 近より其棺に手
を按ければ舁る者ども止れりイエス曰けるは少者よ我なんぢに命なきよ 十五 死たる者起て且言ひ始むイエ
ス之を其母に予せり 十六 衆人みな懼て神を崇いひけるは大なる預言者われらの中に興る神その民を眷顧た

ヘ 太十一〇二
ト 太十一〇四
チ 賽卅五〇五
リ 路四〇十八
ヌ 太十一〇七
ル 馬三〇一
チ 太三〇五 路三〇十二
ワ 徒廿〇廿七
カ 太十一〇十六
ヨ 太三〇四 可一〇六 路一〇十五
タ 太十一〇十九
レ 太廿六〇六 可十四〇三 約十一〇二

まへり 十七 イエスの此聲名ユダヤの全國また偏く四方に揚りぬ○ 十八 ヨハネの弟子すべて是等の事を彼に告
ければ 十九 ヨハネ二人の弟子を召て言遣しけるは來るべき者は爾なるか亦われら他に俟べき乎 二十 その二人
イエスに來り曰けるはバプテスマのヨハネ我儕を爾に遣して言しむ來るべき者は爾なるか亦われら他に
俟べきか 二一 此時イエス多の疾あるひは病および惡鬼に憑たる者を醫し且おほくの瞽に見ることを賜たり
二二 イエス彼等に答曰けるは爾曹が見ところ聞ところをヨハネに往て告よ夫瞽者は見跛者は行み癩者は潔
り聾者はきゝ死し者は復活され貧者は福音を聞せらる 二三 凡そ我爲に躓かざる者は福なり 二四 ヨハネの使
者さりし後イエスヨハネの事を衆人に曰けるは何を見んとて野に出しや風に動さるゝ葦なる乎 二五 然ば爾
曹なにを見んとて出しや美服を衣たる人なるか文繡を衣て奢る者は王の宮に在 二六 然ば何を見んと
て出しや預言者なるか然われ爾曹に告ん是預言者よりも卓越たる者なり 二七 それ爾に先ちて道を備る我使
者を爾の前に遣んと錄されたるは即ち此なり 二八 我なんぢらに告ん婦の生る者のうち未だバプテスマのヨ
ハネより大なる預言者は無されど神の國の至微者も彼よりは大なる也 二九 ヨハネに聞る庶民また稅吏は
其バプテスマを受て神を義とせり 三十 パリサイの人また敎法師は其バプテスマを受ず自ら暴ひて神の旨に
背たり 三一 然ば此代の人々を何に比へ又何に譬んや 三二 童子市に坐し互に呼て我儕笛ふけども爾曹踊ず悲歌
をすれども爾曹哭ずと云に似たり 三三 蓋バプテスマのヨハネ來りてパンをも食ず酒をも飮ざれば惡鬼に憑
たる者なりと爾曹いへり 三四 人の子きたりて食ふ事をし飮ことを爲ば又食を嗜み酒を好の人稅吏罪ある
人の友なりと爾曹いへり 三五 然ど智慧は智慧の子に義と爲らる○ 三六 或パリサイの人イエスを請て共に食せ
ん事を願ければイエスパリサイの人の家に入て食に就り 三七 邑の中に惡行を爲る婦ありけるがイエスがパ

ソ 路十五〇二
ツ 太十八〇廿八
ラ 太九〇二 可二〇五
ム 太九〇三 可二〇七
子 詩廿三〇五
ナ 提前一〇十四
ウ 太九〇廿二 可五〇卅四、十〇五十二 路八〇四十八、十八〇四十二
イ 太廿七〇五十五、五十六
ロ 可十六〇九
ハ 太十三〇二 可四〇一

リサイの人の家に坐せるを知て蠟石の盒に香膏を携來り 三八 イエスの後にたち足下に哭き涙にて其足を濡し首の髮をもて之を拭かつ其足に口を接また香膏を之に抹り 三九 イエスを請たるパリサイの人これを見て心の中に謂けるは此人もし預言者ならバ捫し者は誰なる乎また如何なる婦なる乎を知ん此婦は惡行を爲る者なり 四十 イエス之に答て曰けるはシモン我なんぢに言事あり答けるは師よ言たまへ 四一 イエス曰けるは或債主に二人の負債人ありて一人は金五百一人は五十を負しに 四二 償方なかりければ債主この二人を免たり然バ二人の者うち債主を愛すること孰か多き我に聞せよ 四三 シモン答けるは我おもふに免るゝ事の多き者ならんイエス曰けるは爾が意ところ違ざる也 四四 遂に婦を顧みてシモンに曰けるは此婦を見か我なんぢの家に入に爾は我足に水を給ず此婦は涙にて我足を濡し首の髮をもて拭り 四五 爾は我に口を接ず此婦は我こゝに入し時より我足に口を接て已ず 四六 爾は我首に膏を抹ず此婦は我足に香膏を抹り 四七 是故に我なんぢに言ん此婦の多の罪は赦れたり之に因て其愛も亦多なり赦るゝこと少き者は其愛も亦少し 四八 是に於て其婦に曰けるは爾の罪赦されたり 四九 同に坐せる者ども心の中に謂けるは此人は是何人なれば罪をも赦す乎 五十 イエス婦に曰けるは爾の信なんぢを救り安然にして往

第八章

一 此後イエス鄕邑を周遊て神の國の福音を宣傳ふ十二の弟子も偕に從ひぬ 二 また前に惡鬼を患たりし者病を痊れたる婦等も從ひたり即ち七の惡鬼を逐出れたるマグダラと稱マリア 三 又ヘロデの家令クーザの妻ヨハンナ又スザンナ此ほか多の婦ありて皆その所有を以てイエスに供事たりき○ 四 衆の人々諸邑より出てイエスの所に集りければ譬をもて曰り 五 種まく者種を播んとて出ぬ播るとき路旁に遺し種あり踐踏られ且天空の鳥これを食へり 六 また石上に遺し種あり萌出て槁たり是潤なきが故なり 七 また棘の中に遺し種あり棘も同に生長て之を蔽り 八 また沃壤に遺し種あり生出て實を結べること百倍せり是を言畢て呼りけるは耳ありて聽ゆる者は聽べし 九 其弟子とふて曰けるは是いかなる譬ぞ 十 答けるは神の國の奧義を爾曹には知ことを賜ど他の者には譬を以てす此は視ても見ず聽ても悟ざる爲なり 十一 夫この譬の釋種は神の道なり 十二 路の旁に遺しは聽し後惡魔の爲に其心より道を奪るゝ者なり彼は人の信じて救れんことを恐る 十三 石上に遺しは聽とき喜びて道を受れども根なければ信ずること暫のみ患難に遇時は道に背く者なり 十四 棘の中に遺しは聽て往この世の諸慮と貨財と宴樂とに蔽れて實ざる者なり 十五 沃壤に遺しは正かつ善心にて道を聽これを守り忍て實を結ぶ者なり○ 十六 燈を燃し器にて之を覆ひ或は床下におく者なし入來る者の其光を見ん爲に臺の上に置べし 十七 隱て現れざる者なく藏て知れず露出ざる者なし 十八 是故に爾曹聽ことを愼め有る者はなほ予られ無有者は有りと意ふ所の物をも奪るべし○ 十九 此時イエスの母と兄弟きたりけれど群集に因て近くこと能ざりしかバ 二十 或人これをイエスに告て曰けるは爾が母と兄弟なんぢに遇んとて外に立り 二一 イエス答て曰けるは神の道を聽て之を行ふ者は乃ち我母わが兄弟なり○ 二二 一日イエス弟子と共に舟に登て彼等に湖の前岸へ渡べしと曰ければ即ち漕出せり 二三 舟の走る時イエス寢たり颶風湖に吹下し舟に水滿んとして危かりしかバ 二四 弟子きたりてイエスを醒し曰けるは師よ我儕亡なんとすイエス起て風と浪とを斥めければ止て平穩になりぬ 二五 イエス曰けるは爾曹の信いづこに在や彼等駭き且奇みて互に曰けるは此は何人なるぞや風と水とに命ぜしかバ亦順へり 二六 斯てガリラヤに對るガダラ人の地に着て 二七 岸に登し時ある一人邑より出てイエスに遇この者は久く惡鬼に憑れ衣をきず家に住ず惟塚にのみ居たりき 二八 イエスを見て號叫その前に俯伏し大聲に呼りけるは至上神の子イエスよ我なんぢと何の

ニ 太十三〇十 可四〇十
ホ 賽六〇九 可四〇十二
ヘ 太十三〇十八 可四〇十四
ト 太五〇十五 可四〇廿一 路十一〇卅三
チ 太十〇廿六 路十二〇二
リ 太十三〇十二、廿五〇廿九 路十九〇廿六
ヌ 太十二〇四十六 可三〇卅一
ル 太八〇廿三 可四〇卅五
ヲ 太八〇廿八 可五〇一

ワ 默廿〇三
カ 太八〇卅四
ヨ 徒十六〇卅九
タ 可五〇十八
レ 太九〇十八　可五〇廿二
ソ 太九〇廿
ツ 可五〇卅　路六〇十九

與あらんや爾に求われを苦むること勿れ
二九 この惡鬼は人より出よとイエスが命じたるに因てなり彼の憑きたる事すでに久し鏈また桎梏にて繫守ども其を打碎き惡鬼の爲に野に逐ぬ
三十 イエス之に問て曰けるは爾が名は何と稱や答けるはレギヨン是おほくの惡鬼の入たるが故なり
三一 惡鬼イエスに求けるは命じて底なき所に往しむる勿れ
三二 此に多の豕の羣山に草を食ゐたりしが彼等その豕に入んことを許せと求ければ之を許せり
三三 惡鬼その人より出て豕に入しかば其群はげしく馳下り山坡より湖に落て溺る
三四 牧者ども其有し事を見て逃ゆき之を邑また諸村に告たり
三五 衆人その有し事を見んとて出てイエスの所に來きば惡鬼の離れし人衣を着たしかなる心にてイエスの足下に坐せるを見て懼あへり
三六 惡鬼に憑れたりし人の救れし狀を見たる者この事を彼等に告ければ
三七 ガダラ四方の多の衆庶イエスに此を去んことを求り是大に懼しが故なりイエス舟に登て返ぬ
三八 惡鬼の離たる人イエスと共に居んことを求けるにイエス之を去しめて
三九 家にかへり神の爾に行し大なる事を人に告よと曰ければ遂に去てイエスの己に行たまひし大なる事を遍邑に傳たり○
四十 イエス返たるとき衆人みな佇望て之を喜び接ふ
四一 ヤイロと云る人あり此は會堂の宰なり年およそ十二歳なる一人の女ありて瀕死なりければ來イエスの足下に伏て我家に來り給んことを求り
四二 イエスの往とき衆人これに擁あへり
四三 婦あり十二年血漏を患ひ醫者の爲に其業を盡く耗しけれど誰にも痊れ得ざりしが
四四 イエスの後に來て其衣の裾に捫ければ直に血の漏こと止ぬ
四五 イエス曰けるは我に捫る者は誰ぞや衆人はみな特に捫る者なしと曰りペテロおよび偕に在者ども曰けるは師よ衆人なんぢに擁擠せまるに我に捫る者は誰ぞと曰たまふ乎
四六 イエス曰けるは我に捫る者あり能力の我身より出るを覺ればなり
四七 其婦みづから隱せぬを知をのゝき來て前に伏さはりし故と其たゞちに愈たることを衆人の前に

ネ 可五〇卅五
ナ 約十一〇十一、十三
ラ 路七〇十四　約十一〇四十三
ム 太八〇四、九〇卅　可五〇四十三
イ 太十〇一　可三〇十三、六〇七
ロ 太十〇七、八　可六〇十二　路十〇一、九
ハ 太十〇九　可六〇八　路十〇四、廿二〇卅五
ニ 太十〇十一　可六〇十
ホ 太十〇十四
ヘ 徒十三〇五十一
ト 可六〇十二
チ 太十四〇一　可六〇十四
リ 路廿三〇八
ヌ 可六〇卅
ル 太十四〇十三
ヲ 太十四〇十五　可六〇卅五　約六〇一、五

告
四八 イエス曰けるは女よ心安かれ爾の信なんぢを救へり安然にして往
四九 かく言る時に會堂の宰の家より人きたりて宰に曰けるは爾が女はや死たり師を勞はす勿れ
五十 イエス之をきゝ答て宰に曰けるは懼るゝ勿たゞ信ぜよ女は痊べし
五一 イエス家に入にペテロヤコブヨハネおよび女の父母の外たれにも偕に入ことを許さゞりき
五二 衆人みな女の爲に哭哀しかばイエス曰けるは哭なかれ死たるに非ず寢たる耳
五三 彼等その死たるを知ば之を笑へり
五四 イエス人々を皆いだして女の手をとり女起よと呼曰ければ
五五 其魂かへりて忽ち起たりイエス命じて食を予しかば
五六 父母は駭異ぬイエスこの行しことを人に告るを戒め給へり

第九章

一 イエス十二の弟子を召集め凡の惡鬼を出し病を醫す能力と權威を賜たり
二 また神の國を宣傳へ病者を醫せん爲に
三 彼等を遣さんとして曰けるは路資に何をも携ざれ杖また旅嚢、糧、金二の衣をも帶こと勿
四 何の家に入とも其處に居りて亦其處より去
五 爾曹を不接者あらば其邑を出る時かれらに證のため足より塵を拂へ
六 弟子いでゝ徧く諸鄉にゆき福音を宣傳かつ病を醫せり○
七 分封の君ヘロデイエスの行し諸事を聞て惑り或人は之をヨハネの甦れるなりと言ばなり
八 ある人はエリヤの現れたる也といひ又ある人は古の預言者の一人甦れる也と言なり
九 ヘロデ曰けるは我ヨハネの首を斬り斯る事の聞ゆる者は誰なるかヘロデ之を見んと欲ふ○
十 使徒たち歸來りて其行しことをイエスに告イエス彼等を携ひて潛にベツサイダと云る邑の邊なる野に退きしに
十一 衆人しりて隨ければ之を接て神の國の事を語かつ醫を求る者を醫せり○
十二 日昃くとき十二の弟子きたりてイエスに曰けるは此は野なれば衆人を去せ四圍の鄉村へゆきて宿をとり食を覓る事を爲たまへ
十三 イエス曰けるは爾曹これに食を予へよ答けるは我儕たゞ五のパンと二の魚ある耳この許多の人の爲に往て買に非ざれば別に食物はなし
十四 此に居し男およそ五千人なりき